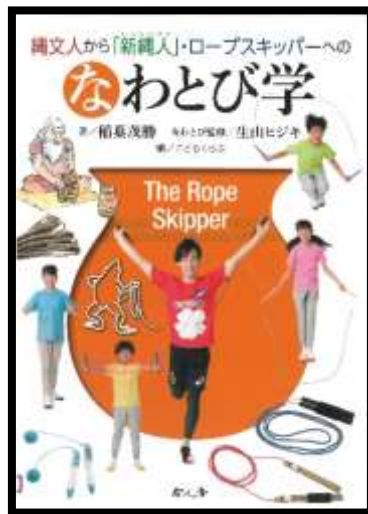


縄文人から「新縄人」・ロープスキッパーへの なわとび学

特集:とぶ



稲葉 茂勝/著

生山 ヒジキ/なわとび監修

こどもくらぶ/編 今人舎[781]

日本では古くから道具としてなわがつかわれていました。平安時代から鎌倉時代にえがかれた「鳥人物戯画」に、なわを持ったウサギやなわのようなものを持っておどるカエルがえがかれています。

なわとびは体育の授業でも活用され、トップアスリートたちも高い運動効果が科学的に証明されてなわとびをトレーニングに取りいれています。

今、なわとびはとぶ技術や演技を競う「ロープスキッピング」という競技としてどんどん進化しています。

あさって町のフミオくん



昼田 弥子/文

高畠 那生/絵

ブロンズ新社[913ヒル]

あさって町にすむ3年生のフミオくんの毎日は、ちょっとへんてこ。

フミオくんは、お母さんにたのまれて買い物に行った帰り道で、シマウマとであいました。しまもようのTシャツを着ていたフミオくんはシマウマのこどもとまちがわれてしまいます。

つぎつぎと不思議な事にまきこまれるフミオの春夏秋冬の4つのお話が楽しめます。

おじいちゃんとの最後の旅



ウルフ・スタルク/作

キティ・クローザー/絵

菱木 晃子/訳

徳間書店〔949ス〕

ぼくのおじいちゃんはかなり面倒くさい人で、頑固で怒りっぽいし、きたない言葉ばかりつかう。いまは入院中だが、パパはお見舞いに行きたがらない。でもぼくはおじいちゃんが大好きだ。

亡くなったおばあちゃんとふたりで暮らしていた島の家に、死ぬ前に一度戻りたいというおじいちゃんのために、ぼくは病院を抜け出す計画を立てる。

おじいちゃんの願いをかなえてあげたいぼくと、面倒くさいおじいちゃんとのやりとりがおもしろく、少し切ない物語です。

古典から生まれた新しい物語

ふしぎな話 迷い家



日本児童文学者協会/編

平尾 直子/画

偕成社〔913コテ〕

4人の作者が古典作品をヒントに新しいお話をつくりました。それぞれの物語の最後に、作者からのメッセージがあり、古典の解説と本も紹介されています。

イギリスの昔話をトルストイが再話した「三びきの熊」は結末がまったく違うものになっています。

少し笑えて少し背筋が寒くなるふしぎな短編集です。